

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	5	学校名	静岡聴覚特別支援学校	校長名	松本 仁美
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

＜評価基準＞ A 十分に達成できた。 B おおむね達成ができた。
 C あまり達成ができなかった。 D ほとんど達成ができなかった。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
ア	学校安全、危機管理の体制と様々な災害に備える教育（防災、感染防止）	○学校の新しい生活様式に基づき、感染拡大防止対策を徹底することができた教員 AB100% ○感染しないよう行動することができた幼児児童生徒 AB100% ○学校は感染対策を十分講じていると回答する保護者 AB90%以上 ○防災訓練の回数を増やしたことで防災意識が高まった教員 AB90%以上 ○発達段階・聴覚障害に応じた実践的な防災教育ができた教員 AB100% ○本校学校安全計画に基づき、計画的に安全教育を行うことができた教員 AB90%以上 ○保健だよりや掲示内容を基に学級での保健指導の充実。保健指導が充実した教員 AB100%	AB100% AB95% AB100% AB100% AB96% AB100% AB100%	A	◎以前に比べてハンカチ忘れが減っている。また、児童の中で、消毒が習慣になってきている。 ●感染対策を行ったうえでの指導には限界を感じた。距離が遠いことで話し手に注目できなかったり、言葉の指導に支障がでたりする場面があった。 ◎児童から避難の時の合言葉が自然と出てくるようになった。 ◎外部講師によるジュニア防災士の授業では、タブレット端末を使って浸水想定域を見たり、クイズを解いたりして楽しく学ぶ姿が見られた。 ●今年度はコロナ対応で交通安全教室ができなかった。保護者の意識を高めるためにも実施したい。 ◎保健室前の掲示物を子どもが操作しながら、楽しく学ぶ姿が見られた。
イ	他者を尊重し、思いやりの気持ちを大切にすることができる子どもの育成	○子どもに思いやりの心を育てる教育ができたと回答する教員 AB90%以上 ○自分や友達の良さに気づくことができた児童生徒 AB100% ○人間関係でトラブルが無いと回答する保護者 AB80%	AB97% AB95% AB90%	B	◎各クラスで「いいことみつけ」の活動に取り組んでいて、友達の良さを見つけるのが上手になってきている。 ●普段の日常生活の中でことが乱れているように感じる。道徳や作文では良いことが書けても、普段の生活で意識することにつながっていない。実際の生活の中での指導が必要になると感じた。
ウ	健康な生活を教員も実践	○時間外業務が月 45 時間以内の教職員 AB100% ○所属学部は業務改善の意識をもって会議や行事を精選したと回答す	AB88% AB96%	B	◎教員の定時退庁への意識が高まっている。 ●保護者対応に時間を取られ、業務に支障が出た時があった。対応を検討したい。

様式第3号

		<p>る教員 AB90%以上</p> <p>○自分は業務改善したと自己評価する教職員 AB90%以上</p> <p>○相談しやすい職場と回答する教職員 AB100%</p> <p>○セルフチェックをしたことにより意識が向上した教員 AB90%以上</p>	<p>AB91%</p> <p>AB97%</p> <p>AB100%</p>		<p>◎経験の長い先生方に、状況に合わせて気軽に相談することができた。</p> <p>◎管理職がいろいろと相談に乗ってくれたので、ありがたかった。</p> <p>◎毎月セルフチェックを行うことが、緩みかけた意識を基に戻すために役立った。</p>
エ	<p>カリキュラムマネジメントによるつながりのある教育課程の編成</p>	<p>○教科横断的な視点で定期的に年計を見直すことができた教員 AB90%以上</p> <p>○計画的・効果的な予算運</p>	<p>AB91%</p> <p>AB100%</p>	A	<p>●年計を修正するには、年度途中での検討会議が必要ではなかったかと感じる。</p> <p>◎ICT関連の必要な備品をそろえることができた。</p>
オ	<p>子どもが主体的に学び合い「授業が楽しい」「授業がわかる」といえる授業づくり</p>	<p>○授業が楽しいと回答する児童生徒 AB100%</p> <p>○授業がわかると回答する児童生徒 AB100%</p> <p>○学校の授業はわかりやすいと回答する保護者 AB100%</p> <p>○全体研修で校外助言者からの指導助言を受け、授業改善ができた教員 AB90%以上</p> <p>○学部研修により授業改善ができたと回答する教員 AB100%</p> <p>○研修課、自立活動課の働きかけで障害特性を踏まえた「わかる授業」づくりを心掛けた教員 AB90%以上</p> <p>○「スキルちゃん」を授業づくりに活用することができた教員 AB100%</p> <p>○「スキルちゃん」を意識して子どもたちに接することができた教員 AB100%</p> <p>○手話学習会等により手話の技能が向上した教員 AB80%以上</p>	<p>AB90%</p> <p>AB95%</p> <p>AB97%</p> <p>AB100%</p> <p>AB93%</p> <p>AB100%</p> <p>AB100%</p> <p>AB100%</p> <p>AB97%</p>	A	<p>◎研修課が全体研修での指導をすぐにまとめて提供してくれたので、助言者のアドバイスを授業に生かすことができた。</p> <p>◎幼稚部、小学部、中学部で共通している課題がほとんどであり、全体研修から学ぶことが多かった。</p> <p>◎様々な先生方の意見から、自分では考えつかないアイデアをたくさんいただくことができ、良い研修になった。</p> <p>●学部で話し合う時間があまりもてなかった。研修の時間を計画的に使えるようにしたい。</p> <p>◎研修課の教員が研修の要点を情報提供してくれたので、課題を一つ一つ解決することができた。</p> <p>◎トイレ等に掲示してあったので、自然と目にすることができ、自分の指導を振り返る良い機会となっている</p> <p>●手話を使う場がないため、技能の向上までには至らなかった。実際の会話を想定したやりとりなど、日常に使える内容を学習会で取り扱いたい。</p>
カ	<p>ICTを活用した効果的な学び(幼稚部、小学部、中学部)の充実と共有</p>	<p>○ICT活用能力が向上したと回答する教員 AB90%以上</p> <p>○子ども自身がPCやタブレット端末に触れる機会を設定した教員 AB90%以上</p> <p>○PCやタブレット端末等</p>	<p>AB81%</p> <p>AB88%</p> <p>AB95%</p>	C	<p>◎コロナ対応で通級指導をリモート学習(ZOOM)で行った。遠隔地同士で顔を見ながら話し合い活動ができるシステムとして平時でも使用を検討したい。</p> <p>●情報の担当が個々に対応しているトラブルや質問をQ&Aに</p>

		<p>の機器を使うのが楽しいと回答する児童生徒 AB80%以上</p> <p>○PC やタブレット端末等の機器を使う授業はわかりやすいと回答する児童生徒 AB90%以上</p> <p>○補聴援助システムを使用して授業を行った教員 AB100%</p> <p>○音声認識システムを活用した小中学部教員 AB80 以上</p>	<p>AB90%</p> <p>AB100%</p> <p>AB47%</p>		<p>まとめると業務改善になるのではないか。</p> <p>◎身近にタブレットがあるので格段に触れる機会が増えた。</p> <p>◎授業時間等において、ロジヤーを適切に使うことができた。</p> <p>●軽度難聴の児童がロジヤーは不要と考えて使わないことがあるが、交流等で必要な時のために集会では必ず使うというルールを徹底したい。</p> <p>●音声認識システムの教員への周知が不十分だった。</p>
キ	<p>専門性を生かした乳幼児教育相談の充実</p>	<p>○教育相談マネージャーとの連携を図り、教育相談事業が充実したと回答する教員 AB100%</p> <p>○情報交換会で得た知識を校内掲示板で提供し、乳幼児教育相談を知ることができたと回答する教員 AB90%以上</p> <p>○乳幼児の発達に関する保護者学習会を年間4回以上実施し、適切な情報提供をする。事後アンケートで有意義だったと回答する保護者 AB90%以上</p>	<p>AB100%</p> <p>AB81%</p> <p>AB100%</p>	B	<p>◎保護者から提示された検査結果を基に教育相談マネージャーから助言を受けることで、教育相談が充実した。</p> <p>●具体的なことが分らなかった。掲示板で情報提供する時にシリーズ化するなど伝わりやすく工夫が必要ではないか。</p> <p>◎保護者学習会後のアンケートで、絵日記を工夫する上での参考になったという声が聞かれた。</p> <p>●幼稚部体験の時期をもっと早めに設定すると、より有意義な情報を保護者に伝えられる。</p>
ク	<p>在籍校から頼られる通級指導教室の充実</p>	<p>○在籍校訪問実施率 90%</p> <p>○在籍校に対するアンケート実施。満足したと回答する学校 100%</p>	<p>100%</p> <p>80%</p>	B	<p>◎難聴理解授業を行ったことにより、子ども自身が「友達に難聴のことを知ってもらえた。」ととても喜んでた。</p> <p>●通常学級の中で困ったときに、自分から「助けてほしい。」という姿があまり見られない。</p>
ケ	<p>コロナ禍における学校理解のための情報発信</p>	<p>○学部ごと月1回ホームページを更新し、学習活動を発信する</p> <p>○学部ごと年間2回以上、学校間交流校や交流籍校に向けて本校の紹介や学習の様子を発信する。</p>	<p>達成できた。</p> <p>達成できた。</p>	A	<p>◎月に1回以上の更新と決めておくことで、積極的な情報発信ができた。</p> <p>●発信はできたが、本校の学習活動の周知につながっているかの検証が必要だと感じる。</p>